

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心 No.558

人は自利を得ているから、利他行ができる。自利を得ていないと、利他行はできない。（『浄土論註』）

△解説▽「自ら度たらざる先に他を度たす」は菩薩行の極意とされるが、泳げない人は溺れる人を助けられない、羅針盤を使えない人は航海士にはなれないと言って、自利を先とするとインド仏典では説く。釈迦も教養もなく、道を修めていない者は十分な利他ができないと教えている。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.5.27 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.557

自他無差別と知ることは道理である。それを体得するには、慈悲心をもつばら修めることが大切である。（『反故集』）

△解説▽すべての人は己と等しく苦樂を受けている。だから己と同じように保護されるべきという。それには他人を己と入れ替えること、他人を己と思う。この考え方を反復し、修める。すると自他が融合し、己に対する他人がなくなる。これが真の慈悲心と言っている。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.5.26 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.560

愚者に褒められる人と、知慧者に非難される人とを比べれば、知慧者に非難される人が、愚者に褒められる人より勝れている。（『テラガーター』）

△解説▽愚者にも数多い考えの中に一つくらいためになるものがあるかもしれないが、多くは役に立たない。そんな愚者に褒められても自慢できない。知慧者の非難には道理に適った言葉が多いので、真摯に受け入れるべきである。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.5.29 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心 No.559

海が水で満ちているように、知慧を満たしている人々は、他人を軽蔑しない。（『テラガーター』）

△解説▽軽蔑するのはおごりの心があるからである。弱みのある人は言葉や行動で威嚇し、すぐに諍いを起こす。教養のない人は怒りやすい。大声で汚い言葉を吐き、バカとかアホとかいう。実力があり、知慧がある人は決して争わない、怒らない、相手を蔑まない。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.5.28 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

山陰中央新報（総合）

中村元 慈しみの心

No.562

（動物の種類）区別はあるが、人にはその区別はない。人に区別表示があるのは、ただ名称によるだけである。
（釈迦）

△解説▽動物は種類によって形も、肌の色も、能力も異なる。だが、種類で差別されることがない。ところが人は国籍、肌色、身分で差別される。差別する理由はわごり高ぶりによる。みな名称への偏見から生まれた差別である。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.5.31 中村元記念館協力

中村元 慈しみの心

No.561

他人の過ちをまねてはならない。己の徳を磨くべきである。仏も他人の過ちを止めることはあっても、過ちを憎めとは説いていない。
（道元）

△解説▽まなぶはまねぶと同じ。言葉も行いもまねることから始まる。しかし悪事をまねてはならない。善行をまねて、己の徳を積むことが何にもまして大切である。人の悪事を憎むのでなく、悪事をしないように勧め、ともに努力することである。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2017.5.30 中村元記念館協力